

KIZUNA

通信

発行：公益社団法人福島県整骨師会



私達の仕事、「ほねつぎ」「接骨師」「整骨師」など、日頃よく使われる呼び名は様々ですが、正式な資格名称は「柔道整復師」といいます。私達福島県内の柔道整復師で構成する「公益社団法人 福島県整骨師会」、その日頃の活動や社会的なとりくみ、例えばスポーツイベントでのボランティア、地域の方々との交流、勉強会等。そして「いつの時代からあるの?」「なんで名前に“柔道”ってついているの?」といった事まで、私達の事をよく知っていただくという事で、この度「KIZUNA 通信」創刊いたしました。地域の皆様の「痛い」、「つらい」を何とかしたい。健康ライフをサポートさせていただくパートナーとしての「絆」を大切にしたい、との思いから「KIZUNA 通信」の名前が決まりました。

年2回、半年に1度の発行となります。健康に関するワンポイントアドバイス、豆知識等の情報も発信していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

CONTENTS

- ・創刊にあたって 2
- ・第35回東北ブロック会柔道大会
第22回東北少年柔道大会
第3回東北ブロック会少年柔道形競技会
第57回日本柔道整復師会東北ブロック会岩手県大会 2
- ・特集 柔道整復師てなに? 3
- ・第25回公益社団法人福島県整骨師会旗争奪少年大会
第3回公益社団法人福島県整骨師会少年柔道形競技会
第23回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会福島県予選
..... 4
- ・予備運動 ゆすりと振り子の動き 4
- ・編集後記 4



創刊にあたって

公益社団法人福島県整骨師会 会長 遠藤 寿之

当会は戦前設立され、その後法人化され地域に根付いた『骨接ぎ医者』として怪我の治療等県民の健康を守り地域医療に貢献してきました。

今年4月1日に福島県より公益社団法人の認可を受け県民が健康で安心・安全な生活を送れる環境を支えていくための組織（団体）として新たなスタートを切りました。

いま福島は未曾有の大災害を経験し、計り知れない大きな傷を受け、未だ回復しておりません。

この経験から学んだ事に人と人との絆が試練

を乗り越え、前を向いて歩いて行けること、小さな灯も一人一人が灯せば大きな光となり、福島が明るく元気になれることも学びました。

このような状況から当会が行っている社会貢献活動・医療情報また会員や患者さん、地域の方々よりの明るくほのぼのとしたニュースも取り上げた紙面を作り、公益活動の一つとして広報誌『KIZUNA 通信』を発行することとなりました。

今後、回を重ねるごと、より良い紙面づくりを目指していきますので、期待とご協力をお願いいたします。

第35回東北ブロック会柔道大会 第22回東北少年柔道大会 第3回東北ブロック会少年柔道形競技会 第57回日本柔道整復師会東北ブロック会岩手県大会

7月12日（土）岩手県営武道館に於いて開催され、小松会員が30歳代で第3位となり、少年団体の部で、四倉松武館が予選リーグを2：1で志栄會凌門塾（宮城県）に、3：1で朝陽武道館柔道スポ少（山形県）に、5：0で沼宮内柔道スポ少（岩手県）に勝ち、3勝0敗で勝ち上がり、準決勝で全日本柔道少年団上北分団（青森県）に2勝3敗で惜敗し第3位となり大健闘でした。新地町柔道スポ少は、予選リーグを1勝2敗で惜敗しました。形の競技は、石背柔道会スポ少が、僅差の第5位となり、安積柔道スポ少は、第8位と残念な結果となりました。

柔道大会後、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて、第57回日本柔道整復師会東北ブロック会岩手県大会報告会に於いて薄葉英行会員、高橋喜三郎会員、小湊豊会員が会員永年表彰を受けられました。

翌日の第35回東北学術大会岩手大会に於いて、内藤良博会員が演題「介護予防二次予防事業による転倒不安と体力評価の関連についての考察」を研究発表し、太田賢一郎会員が、演題「肩部痛への筋ミルキングと相反抑制による可動域改善」を実技発表しました。



柔道整復師てなに？

柔道整復師は、昔から「ほねつぎ」、「接骨師」として広く知られていて、現在は高校卒業後、厚生労働省の許可した専門養成施設(三年間以上修学)又は文部科学省の許可した四年制大学で「解剖学、生理学、運動学、病理学、衛生学公衆衛生学」などの基礎系科目と「柔道整復理論、柔道整復実技、関係法規、外科学、リハビリテーション学、一般臨床学、整形外科学」などの臨床系専門科目を履修します。

養成施設を卒業後国家試験を受け、合格すると厚生労働大臣免許の柔道整復師となります。

資格習得後は、臨床研修を行い、「接骨院」や

「整骨院」という施術所を開設できます。

また勤務柔道整復師として病院や接骨院などで働くこともできます。

最近では国家資格取得後、開業、病院勤務、接骨院整骨院のスタッフはもとよりスポーツ分野でのトレーナーや介護や福祉の分野での機能訓練指導員としても活躍しています。

また、その活動範囲は日本だけではなく世界にも広がっており、確かな知識と技術を備えたスペシャリストとしても多方面で活躍しています。

柔道整復師（国家資格）≠ 整体師 カイロプラクティック師（民間資格）

柔道整復師（国家資格）≠ 鍼灸師 あん摩マッサージ師 指圧師（国家資格）

歴 史

1619年、中国から亡命していた陳元贊が拳法（柔術）と正骨術を江戸と長崎で伝授しました。これが柔術と整骨術を結び付ける端緒となる。

1746年、高志鳳翼が日本最古となる整骨書「骨継療治重宝記」を著し、吉原元棟は拳法と按摩術、外傷性脱臼の整復法を伝え、『正骨要訣』を発売し外科の分科として整骨科を起こした。

1810年、大阪の各務文献が運動作用の理論研究書「整骨新書」と「各骨真形図」を執筆。骨折から筋骨の疾患など多岐に渡るその内容は、今日の整形外科非観血的療法そのものと言われています。

明治6年（1873年）太政官令により整骨師は医者として認可され、明治7年（1874年）の「医制」公布により、新たに開業を希望する者は、試験への合格が必須となりました。その試験内容は、翌年の明治8年（1875年）に「医師学術試験規則」として、局部解剖、生理、病理など、計7科に定められました。

明治18年（1885年）内務省達「入歯、歯抜、口中療治、接骨営業者取締方」によって既得権者も医術開業試験を受けることになったため接骨業者は激減し壊滅状態となった。

明治45年（1912年）柔道家による接骨業公認運動が開始された。

大正2年（1913年）各流派の柔術家が「柔道接

骨術公認期成会」を結成し、復活運動を繰り返した。

大正9年（1920年）これまでの運動により内務省令により「按摩術営業取締規則」を準用するという形で「柔道整復術」という名称で公認され、同年、第1回の柔道整復術試験が警視庁で施行された。受験資格は「医師または柔道整復師のもとで、柔道の教授をなすものであって、4年以上臨床実習したもの」であった。

昭和22年（1947年）「あん摩、はりきゅう柔道整復師法」となる。

昭和26年（1951年）養成学校を卒業して資格試験を受けることになり、学校養成施設による柔道整復師の養成が始められ、学校教育による免許制度が制定された。

昭和45年（1970年）従来の「あん摩、はりきゅう柔道整復師法」から「柔道整復師法」として単独法となった。

平成元年（1989年）柔道整復師法の大改正で、試験や免許の管轄が都道府県知事から厚生大臣へ移行した事を受け、国家試験へと移行することとなる。

平成5年に第1回柔道整復師国家試験が実施されました。

こうして、本格的に国家資格としてスタートを切った柔道整復術ですが、現在、学術面、技術面においても更なる飛躍を遂げています。



第25回公益社団法人福島県整骨師会旗争奪少年大会 第3回公益社団法人福島県整骨師会少年柔道形競技会 第23回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会福島県予選

5月11日（日）喜多方市塩川体育館にて開催され、四倉松武館（いわき）が優勝した。

公益社団法人福島県整骨師会が主催して、1チーム5人編成（先鋒に4年生1名、次鋒、中堅に5年生2名、副将、大将に6年生2名）の団体戦で、県内の21チームが出場した。ブロック別の予選リーグを勝ち上がった7チームが決勝トーナメントに進み優勝を争った。選手は、日頃の稽古の成果を発揮し、白熱した試合が繰り広げられた。優勝した四倉松武館は、10月13日（月）体育の日に、東京都の講道館で開かれる全国大会に出場する。団体戦の成績は次の通りです。

優勝 四倉松武館

準優勝 新地町柔道スポ少

第3位 石背柔道会スポ少（須賀川）、内郷柔道塾（いわき）



柔道形競技会も開かれ、過去最多の8チームが参加し、安積柔道スポ少（郡山）が、3連覇した。成績は次の通りです。

優勝 安積柔道スポ少（取、松本優士、受、中谷有賀）

準優勝 石背柔道会スポ少（取、加藤陽岐、受、佐藤優璃）

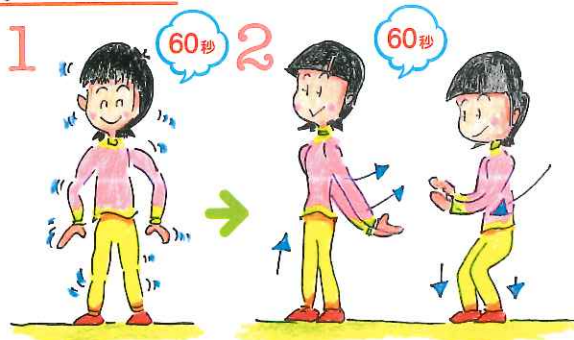
第3位 新地町柔道スポ少（取、佐藤峻馬、受、黒はばき健人）

各種目の上位2チームは、7月12日に盛岡市で開かれる東北大会に出場する。

予備運動 ゆすりと振り子の動き

どこでも誰でも簡単健康柔体操、最初は予備運動から始めてみましょう。水泳の北島康介選手や陸上のアスリート達のスタート前を思い浮かべてください。体を全身ゆすったり軽くたたいたり手足をふったりしています。緊張した筋肉と心を落ち着かせるために行なわれるものです。全身の筋肉をゆるめ血行を良くする効果があります。健康柔体操の予備運動はこれを取り入れてイラストのように振り子の運動とゆすりの運動を行います。

Let's Try やり方



Let's Try やり方

まずはゆすりの運動を行なってみましょう。できるだけリラックスして立ちます。下げた腕をブラブラさせながら両膝を小刻みに震わせませす。全身をブ

ルブルさせる感じで60秒くらい行います。ゆすりをとめた際に手の平や指にジワジワ感が現れると思います。末梢の血行が良くなった証です。

次に振り子の運動ですが両腕を前後に振りますが、この際ブランコのイメージを思い浮かべてください。初めは漕ぐ感じですが後はその反動の繰り返しで力は要りません。これも60秒くらいからはじめてみましょう。いずれも60秒って、意外と長いなと感じると思います。

この運動の効果

いずれの運動も日常の中で知らず知らずに緊張している筋肉をほぐして全身の血行を良くして代謝を促進します。誰でもできる簡単な運動ですが習慣にしていれば何もしないときよりも体の気づきを感じられると思います。レッツ健康柔体操ちょっとやって見てください。

編集後記

『KIZUNA 通信』創刊にあたり、事業部会を6月8日開き、それから各部員の原稿持ち寄りやと1ヶ月遅れで発行に至りました。患者さんにもっと柔道整復師の事を知って戴きたく、また施療の話題にでもなればとの思いもあり執筆しました。何か話題になるものがありましたら御一報下さい。（緑川）
より良い情報を提供していきたいと思ひます。（大堀）
歴史について、私もこれを読んで初めて知りました。（小野里）
柔道整復師の歴史を改めて勉強できました。（齋藤）